



# 山梨岳連報

第 97 号(不定期)  
2023(令和 5)年 6 月 1 日  
発行 山梨県山岳連盟  
編集 広報委員会  
(甲府市湯田)

## 山梨県山岳連盟総合研修会 指導委員会

ここ数年、コロナのため実施できなかった総合研修会を令和 4 年 11 月 5,6 日、芦安山岳館を中心に開催した。①角田医学委員長による登山に必要な医学的事項の解説、②安藤英一遭対委員長による JMSCA の『夏山リーダー(基礎編)講習会テキスト』で扱われているセルフレスキュー部分の解説と、安全確保、救助連絡の方法、搬送、装備品の使い方、退避場所の確認等の実技指導、③飯野心平氏による自身のチベット遠征時のトレーニングと現地での活動について解説、④芦安山岳館の管内見学、を行った。



のべ 23 人の参加があった。参加者には、事前学習と実技に必要な品の事前準備をお願いし、コロナ感染防止対策も徹底した。希望者は白雲荘に宿泊し、登山談議に花を咲かせた。

2 日目は、8:00 芦安第 2 駐車場に集合し旧道を辿って夜叉神の森に出て夜叉神峠を往復した。参加者は全 13 人。GPS 機器は使わず地図で現在地を確認しつつ足を進めた。噂通りの荒れた状況に上り途中で旧道を見失い、地図を頼りに二手に分かれたり、道なき斜面を上り詰めたりしながらの踏査となった。舗装路脇で、再び道標と出合え、旧道に戻って夜叉神の森に抜けた。晩秋の夜叉神峠で、薄っすら雪化粧した間ノ岳を楽しんでターン。下りも薄い踏み跡や途切れるテープ類、朽ちた木の階段等旧道の手掛かりを拾い、地図に自分たちのトレースを書込みながら 15:00 過ぎに下山した。

コロナ感染症の県内罹患者数の状況によっては直前での中止となる恐れもあったが、両日の参加者の感想も概ね好評で、こうした企画が待ち望まれていたことを実感した。

## 初級冬期大菩薩研修山行

令和 5 年 1 月 28 日(土) 初級冬山研修山行を大菩薩山系で実施した。

前日夕方から降雪があったが、予定通り裂石丸川峠入口駐車場に 6:00 集合。参加者 5 人。各自準備を整え、荷物の重量を計って出発。新雪に動物の足跡しかない登山道を、地図上での現在地確認と先の地形を読みつつ進む。上日川峠に出ると、青空のもと陽光さんさんの登山道となった。唐松尾根に取り付く。稜線が近づくと、強風に舞い上げられた雪が体に当たり始めた。雷岩の分岐付近は地吹雪状態。稜線樹林帯も木々の間を風が抜けてきた。大菩薩嶺で、風下斜面に足場を固めて、防寒防風対策。雷岩に戻り、そのまま大菩薩峠まで、寒風の中を縦走。南の富士山はすっきり。雪で白みのかかった街並みの盆地越しに、南アルプスの山々が綺麗な山容を見せていた。



戻った上日川峠にて、コーヒーブレイク。そのまま往路を下り、裂石に 14:46 全員無事帰着。解散した。

下部は、初冬の初雪直後の雰囲気。上部では、冬の寒さを体験。アイゼン等を使わずに済んだので、次回の研修山行に期待する声も聞かれた。  
(指導委員長 辻)

## 山岳レイジャー及び自然保護活動

山岳レイジャー活動結果について、令和 4 年 12 月に山梨県自然共生推進課へ報告を完了した。令和 4 年度も 4/1~9/30 の半年間、延べ人数 285 名による貴重なデータを収集できた。

岳連として調査を請け負っている山域は、亜高山~高山帯。24 種の特定種のうちヒイラギデング以外を調査することができた。この結果より、ヒイラギデングは生育地が登山道沿いではないため発見は困難であると推測できたこと、また、これまで発見出来なかった北岳でのニョホウチドリが見つかったのも大きな成果であった。特定種以外の報告も多くあった。

一方、自然保護活動の一環として楡形山、三ツ峠などに整備された防鹿柵を整備した。この効果は高く、ここ数年、植生の復活が報告されている。しかし、山野草愛好家の『珍しい花の写真を撮りたい』という欲求には、この柵は満足できないものがあるようだ。柵内の写真を撮ろうと同じ場所を歩くことによる踏圧で、その山野草周辺の環境が悪化しているという状況も出てきている。

自然保護というのなかなか難しく、ただ柵で囲うだけではなく『見せる保護』という形にできないだろうかと模索中である。

自然保護委員会は 37 名の大所帯だが、今回の防鹿柵整備など、人手が多く必要な自然保護活動も多々ある。委員だけの力では足りない部分も多いので、岳連関係の多くの皆様のお力添えをお願いしたい。  
(自然保護委員長 中川)

### 山梨県体育祭りスポーツクライミング競技会

2022(R5)年 9 月 25 日(日)、小瀬スポーツ公園クライミング場において、世界初？日本初？のエンデュランス/フラッシュ方式で、山梨県体育祭りスポーツクライミング競技会が開催された。

安定しない天気が続くなか、当日は晴れて少し暑すぎるぐらいの気温の中で、オープン男子、オープン女子、ミドルの3クラスに14名の選手が参加し、エンデュランスという過酷な競技に取り組んだ。

運営側も初めての方式に戸惑いもあったが、競技自体は思っていた以上に盛り上がったように思う。

#### 競技結果

- ミドルクラス 1 位 中野翔太  
2 位 熊代顕 3 位 渡辺真二郎  
オープン女子 1 位 勝俣香乃  
2 位 妹尾沙斗美 3 位 渡邊愛音  
オープン男子 1 位 小林信哉  
2 位 大原広 3 位 手塚凜空  
(SC担当副理事長 石原)

### 第 77 回とちぎ国体スポーツクライミング競技会

コロナ渦により第 75 回、第 76 回と 2 年連続で中止になった国民体育大会が、2022 年 10 月 1~4 日、栃木県壬生町総合運動場特設会場で 3 年ぶりに開催され、成年男子が出場した。監督は矢花、選手は佐藤と小林の 3 名で参加した。

開会式式典には天皇・皇后両陛下を迎え、ブルーインパルスが飛来する中盛大に行われ、中でも、地元の小中学生の演舞は長期間にわたって練習したものであったらしく、見事な演技であった。

今回の大会を振り返ってみると、檜崎兄弟をはじめワールドカップ出場者がひしめく大会では課題もかなり厳しい設定が行われたが、ボルダーではムーブの読みが的確であればもう 1 課題ずつ完登のチャンスがあったように思う。リードにおいては、緊張感からか本来の力を出し切れなかった感があるのは残念であったが、2 人とも来年以降への手応え、課題を掴んだ意義のあった大会であったと思う。

#### 競技結果

- ボルダリング 総合順位 23 位(佐藤竜馬 36 位  
小林信哉 53 位) 予選突破 8 位まで  
リード 総合順位 33 位(佐藤竜馬 48 位  
小林信哉 80 位) 同上

(SC委員 矢花)

とちぎ国体 リード競技の様子



### 第8回関東小中学生選抜スポーツクライミング選手権大会

2022 年 11 月 20 日(日)に甲府市小瀬スポーツ公園クライミング場において第 8 回関東小中学生選抜スポーツクライミング選手権大会(以下関東小中)が行われました。

大会当日は、一時雨の降る寒い空模様の時もありましたが、選手 60 名、コーチ・トレーナー 10 名、スタッフ約 50 名が参加し、選手たちの熱い登りに大会はおおいに盛り上がりました。この大会では競技周りのスタッフの多くを隣県にお願いすることで開催が実現しました。ご協力いただいた多くのスタッフ、また参加していただいた選手、関係者のみなさまにお礼申し上げます。

#### 競技結果

- 小学生男子 1 位 仲田和樹 2 位 石田奏  
3 位 濱田 琉碧  
小学生女子 1 位 原 菜都美 2 位 玉城陽南美  
3 位 渋谷 紗和  
中学生男子 1 位 濱田 琉誠 2 位 船木 陽  
3 位 笹原 蓉翠  
中学生女子 1 位 村杉 汐里 2 位 山根 嘉穂  
3 位 難波 希歩

(SC委員長 中島)

### ジュニアアスリート・トータルサポート事業

山梨での国体 2 順目を見据え、主に小学生高学年をメインターゲットにしたスポーツクライミングの複数の事業を県スポーツ協会の補助金を活用して実施した。

前回の岳連報で記載した 4 月の山梨カップ 2022、6 月のリード合同練習会とビレイ講習会はこの補助金を

活用。8月にはクライミングジム Activa-A において、アクティブリード夏祭り 2022 というリードのコンペを実施したほか、10 月にはクライミングジムピラニア富士吉田店において子どもたちのレベルアップ体験相談の計4事業を実施した。

また、選手の保護者 1 名が JSPO 公認の SC コーチ 1 を取得するための経費に対しこの補助金を活用した。  
(理事長 望月)

## 減遭難の取り組み経過 遭難対策委員会

JMSCA から依頼があった令和 4 年度事業である減遭難活動の山城が乾徳山に決定した。選定理由として初心者・家族連れ等の登山者が多く、また道迷いの発生件数が山梨県内の山岳地域の中でかなり多い事もその理由である。

取り組みの内容としては、道迷いの多い箇所・登山道が不明瞭な箇所に登山道案内の標識等を設置することである。地元遭対協・市役所・山梨県・環境省等の協力を得て、地元遭対協デザインの表示案内看板を作成。これは奥秩父山域にすでに設置されている案内標識とデザインが統一されたものである。新型コロナウイルス感染拡大により、設置に関わる作業が大幅に遅れているが、令和 5 年度に案内看板を設置予定。

## 年末年始入山指導

年末年始に奈良田、馬返し、天女山、美し森駐車場、夜叉神峠、尾白川溪谷駐車場、御座石の 7 か所にて 12 月 29 日～1 月 3 日まで入山指導を県観光課職員・警察官主体のもとに行なわれた。

本連盟が関わった奈良田登山口では期間中、21 パーティー 40 名以上の入山があった。入山者はほぼ県外者であり、単独者も多くいた。登山届の提出先は県 HP からが多く、次に山梨県警 HP・コンパス順であった。山梨県条例に基づき冬季において登山届を提出する義務はほぼ周知されているようである。年末年始は天候も安定し、特に大きな事故・遭難もなかった。知人も年末から農鳥岳に登っていったが存分に楽しめたようだった。

(遭難対策委員長 安藤)

## 山梨ピッチマップ作成

2015 年山岳遭難の防止に役立てるため、県は山梨 100 名山について「山梨山のグレーディング」を作成した。一方、同じルートであってもピッチ毎に難易度が変わるため、再度そのルートの特徴をピッチ毎に表す「安全登山マップ」作製に 2019 年より着手した。しかし、2020 年新型コロナウイルス感染症の広まりにより登山が自粛される中、ガイドや山小屋関係者による「登山道点検パトロール」事業を経て、昨年末すべてのルート調査を終了し県に報告した。

(小宮山会長)

## 2022TJARを完走した山梨の選手のトークショー開催

Trans Japan Alps Race (TJAR) は、富山湾(日本海)から駿河湾(太平洋)まで、北・中央・南の 3 つのアルプスを自身の足のみで 8 日間以内に踏破する距離およそ 415Km の過酷なレース。2022 年 8 月の大会には、山梨から井出善啓選手(白鳳会)と中島裕訓選手が参加し、見事完走を果たした。この快挙を祈念し、当人たちからレース中の状況などを披露していただくトークショーを山梨岳連、白鳳会、アウトイングプロダクツ エルクの三者による共催で 9 月 28 日に山梨県立文学館講堂で開催した。出演は、両選手のほかコーディネーターにプロトレイルランナー山本健一さんとエルク社長柳沢さんが加わり、聴衆は約 130 人が集まった。井出選手からは前年大会の台風による途中中止の時の思いやその後出場する気持ちが折れそうになったこと、中島さんからは路上で寝ていたら顔にヤマビルがたかり血だらけになったことなど、とっておきのいくつもの話で会場は盛り上がった。  
(望月理事長)

## 岳連法人化の取り組み状況

具体的に法人化の作業をどのようにしていくか、先進の他岳連から資料を頂戴し検討した。法人化の事務的手続きは資料を基に作成すれば良いことはわかったが、同時に法人化する団体の名称やマークをどうしていくかが、小さいようで大きな問題であることもわかった。

令和 4 年 11 月 2 日付け岳連会長名で名称について各会で話し合っただけという依頼文を出しているが法人化への必要性に迫られていないためか、それらの議論についても低調のようである。そんな折、かねてより一部の岳連メンバーが芦安山岳観光案内所と広河原インフォメーションセンターの運営を担ってきたが、運営の受け皿となる法人の必要性が高まってきた。長野県山岳協会は、県山岳総合センターの指定管理のため、協会本体とは別に関係者によって一般社団法人を立ち上げ運営している。これを参考に当方でも会長経験者など 6 名が主体となり一般社団法人山梨山岳案内協会を令和 5 年 4 月 5 日に設立した。

なお、この法人は岳連本体の法人化を阻むものではなく、本体が法人化する際には統合すべき団体としている。  
(理事長 望月)

## 観花隊経過報告

昨年に引き続き、2023 年 6 月遠征に向け、トレーニングを継続中。

2022 年 10 月 小川山・野猿返し、12 月 小川山・レスキュー関連

2023 年 1 月 鹿島槍スキー場付近にてラッセル、氷河レスキュー、2 月 ファーストエイド講習、爺ヶ岳・東尾根、3 月 五竜岳 GO 稜、4 月 西穂高岳西穂沢ダイ

レクト、前穂高岳ダイレクトルンゼ、5月富士山高所トレーニング

ロープワークやシステムを繰り返し行なってきたことや、雪山での技術などとても質の良いものに仕上がってきました。また、テントで過ごす時間も長く、隊員同士のコミュニケーションもよく取れている隊に仕上がっています。(国際委員長 今村)

## 第16回山岳スキー日本選手権大会

2023年1月27～29日に、富山県黒部市宇奈月温泉街近郊の宇奈月スノーパークで、第16回山岳スキー日本選手権大会が開催された。

山岳スキー競技は、登山の一形態である山スキーとは違って、スポーツとしてのルールを備えたアウトドアスポーツ競技の一つ。競技内容は、山岳エリアに設定された上り下りを含むコースをスキーで周回して戻ってくる時間を競うタイムレース。登りではスキーにシールをつけて登高して、下りはシールを外して踵を固定して滑降する。急斜面や岩場などでは、スキーを外してザックに取り付け、ブーツ歩行する。

2021年7月20日に開催された国際オリンピック委員会(IOC)の総会において、「山岳スキー」が2026年ミラノ・コルティナダンペッツォ冬季オリンピックの追加種目に正式承認され人気となっている。

一般的な競技種目は、長く複雑なコースを使用するインディビジュアル競技が主流だが、オリンピック種目に採用されたのは、比較的短距離で標高差が大きいコースを何度も往復するスプリント競技だ。男子スプリントと女子スプリントと混合リレーが予定されている。

今大会の参加者はインディビジュアル競技が41名、スプリント競技が38名。20歳以下のジュニア男子の宮下環選手は山梨県人で、将来有望な選手である。

参加人数がまだ少ないので、まずは競技人口を増やしていくことが重要なポイントかも知れない。(医科学委員長 角田)

## 第63回木暮祭

奥秩父の山々を登山の対象として世に広く紹介した木暮理太郎氏(明治6年～昭和19年、日本山岳会第三代会長)の遺徳を偲んで、毎年10月の第3日曜日に山梨県北杜市須玉町の増富ラジウム峡の奥、金山平に建つ木暮理太郎顕彰碑前で今年も木暮祭が開催された。地元北杜市須玉総合支所長内藤肇氏、公益社団法人日本山岳会からは副会長坂井広志氏、常務理事柏澄子氏のほか、日本山岳会山梨支部員や山梨県内の山岳関係者多数が参加された。

碑前祭の後、内藤順造山梨支部顧問による「木暮理太郎の盟友(田部重治)」をテーマとしたミニ講演が行われ、その後、「ほうとうを食う会」が3年ぶりに復活し、熱々のほうとうに舌鼓を打ちながら談笑の輪が

広がった。なお木暮祭恒例の支部山行は、午前中、近くの横尾山で実施された。

(日本山岳会山梨支部 HP より抜粋)

## 二つの2023新春懇談会

2023年1月には新型コロナがかなり収まってきたことから、JMCSA主催の新春懇談会と、本連盟による新春懇談会が開催された。

1月14日に東京アルカディア市ヶ谷においてJMCSA新春懇談会が開催され、これに先立ち表彰式が行われ、山梨からは小沢利一監事と辻敏夫副会長がJMCSA特別表彰を受賞し、久保田明宗評議員が永年参与表彰を受賞した。

同21日には甲府市の岡島ローヤル会館で本連盟の新春懇談会を開催し、久しぶりの連盟各会から26名が集い、また今回は個人会員2名も参加し大いに盛り上がった。(理事長 望月)

## 白鳳会からのお便り

当連盟加盟の白鳳会では5月27,28日 鳳凰三山のひとつ地蔵岳の賽の河原へ、お地蔵様2体を奉納予定している。10年毎に2体ずつ上げているとのこと。地蔵岳賽の河原のお地蔵様には子宝に恵まれるというご利益がある。

(広報委員長 望月)

## 理事会の開催と主な内容

【9月7日】関東小中学生SC大会計画案 /TJARトークショー実施案 /北岳大樺沢下部ルート復活と北沢峠への林道復旧要望

【10月5日】関東小中学生SC大会費用負担について /岳連総合研修会実施案 /岳連カレンダー配布数と山岳レインジャー配分費との整理 /北岳大樺沢下部ルート通行禁止対応

【11月2日】関東小中学生SC大会開催について /HPスポンサー継続依頼 /本連盟法人化時の名称変更の各会照会 /岳連総合研修会実施案 /甲斐国ロングトレイル協力 /奈良田登山口指導対応案

【12月7日】岳連カレンダーとレインジャー費の相殺処理 /岳連内雪山研修会案 /関東地区山岳連盟総会の協議事項

【2月1日】JMCSA次期理事候補者の推薦 /本連盟の役員選考 /岳連法人化の考え方 /関東小中学生SC大会のあり方 /大樺沢登山道と砂防指定地について

## スポンサー一覧 (順不同)

株式会社 早野組(甲府市東光寺)/エルク(甲府市德行)/今井整形外科医院(甲府市上阿原町)/パイの家「エム・ワン」(北杜市大泉町)/芦安ファンクラブ(南アルプス市芦安)/そらのした(富士吉田市上吉田ほか)/金精軒(北杜市白州町)